

# 奥会津だより



金山町伝統野菜の赤カボチャは  
空に浮かんだ宇宙船  
鮮やかなオレンジは太陽と甘さを閉じ込めた証  
森を成していた葉は  
収穫を見届けずに役目を終えた

写真：菅 敬浩 撮影地：金山町

# 僕より小さいお母さん

藤田 暁嗣 (平成二十年度当時 只見中学校三年)



(すその広がったズボン) だったそうです。

現在の後ろの川は人工的に造られたもので浅くなっているが、当時は自然のままで力ジカも多く深さもあつたそうです。

当時の話を聞くと環境問題もなく、自然がそのまま残されている感じがします。

この四十年で便利さと引き換えに環境も汚染されたようです。

昭和四十三年の夏、朝日診療所付近橋上での写真です。

当時、まだコンクリートではなく、やり道で、たまに車が通り、車が通ると砂ぼこりが立つほどで、それを防ぐのに水をまいたりしていたそうです。

この写真を見ても分かるように、橋のらんかんも簡単につくりで、冬になると雪が積もり、除雪もしっかりできてない状態だったそうです。

服装は、基本は洋服で今とあまり変わっていないそうです。当時はやりの服は、ピチピチのTシャツにパンタロン

## 取材ノート 「十一年前の聞き書き・その後」

Q:「僕より小さいお母さん」というタイトルは?

暁嗣さん:「中学三年生の時にこの写真を見て、だっこのさされている子が母親だったから、そう感じたのでしようね。母の実家は朝日地区でした。」

Q:「暁嗣さんの名前の由来は?」

暁嗣さん:「成功の暁には:」って言うじゃないですか。将来、何事も成功するようにということらしい

です。

Q:「地元の只見小学校、只見中学校、只見高校を卒業された?」

暁嗣さん:「野球が好きで、中学生の頃只見高校は野球が強かったため、只見高校に進学しました。一応小中高とキャプテンをやっていました。」

Q:「朝日地区は朝日岳があるところですか。登ったことはありませんか?」

暁嗣さん:「朝日岳は、ないです。Q:「マッターホルンのような蒲生岳はどうですか?」

暁嗣さん:「こっちの子どもたちは、小中高の学校行事で登山をやるんですけど、その記憶で、二年前に兄弟で登ってみようか、と行って来ました。八合目ぐらいで膝が笑っちゃって、なんとか気力で登頂しました。山頂からの景色がとてもいいところです。」

Q:「生まれたこの町を出て、都会に行こうとは思いませんでしたか?」

暁嗣さん:「思ったことはありません。『自然首都「只見」』と言われても子ども頃はピンとこなかったんです。大人になってみたら只見のいいと



藤田 暁嗣さん (平成五年生 二十六歳)

ころがたくさん見えてきたんです。山にふれあい、春は山菜、秋キノコとか、溪流では釣りも出来る。しみじみ、この町で暮らすことのおもしろさが分かってきたんです。

Q:「高校卒業後、地元の建設会社に就職されたのですか?」

暁嗣さん:「はい、現場管理をして、最近石積みや只見と新潟県三条市

## 奥会津の鳥

写真・文:新国 勇

### ニユウナイスズメ

スズメに似るが、頬に黒い斑がない。明るい栗色の頭がオス(右)、白っぽい眉が目だつのがメス(左)。チィー、チィーと澄んだ声で鳴く。晩秋、スズメの群れに混じることがあるの、じっくりご覧あれ。



## 広瀬神社の神輿渡御

(古町の祭り)



を結ぶ峠の八十里越にあるスノーシェッドなどを担当しました。携帯の電波も入らないような山奥で仕事をしていると、そこでまた自然の良さを感じるんです。社員の人もいい人ばかりで、私は恵まれているなあ、と思います。

写真・文責:菅 敬浩

広瀬神社は、会津郡の伊南を治めていた河原田盛光が子孫の武連長久と安泰を祈願し、一一九〇年に建立したとされる。社のある宮ノ沢は古町集落の鬼門にあたり、古町の鎮守として一八七一年に廣瀬神社と名を改めて現在に至る。

廣瀬神社の祭礼は九月第二土曜、古町鎮守羽黒権現祭礼として天和元年(一六八一年)に始まったという。京都の祇園祭の形式を取り入れたと伝えられ、早朝から夕方まで行われる神事は古式豊かに展開される。一年の暮りへの感謝と、巡る年への豊作を祈願する神事の中で、御神輿渡御祭は町の重要無形文化財に指定されている。

(写真提供:南会津町観光物産協会)

# 奥会津巨木めぐり

写真・文：新国 勇

## 川井のケヤキ

(三島町川井)

ケヤキでは只見川随一の巨木。幹周七・三m、直径一・三m、樹高二十九mもある。三島町川集落の背後を流れる只見川の急斜面にどっしりと根を張る。対岸の名入集落が大火のとき、このケヤキで延焼をまぬがれたという。対岸が見えないほど



どの森となった今では信じがたいが、燃料革命前の裸地化していた里山時代にはありえそうな話。

## 奥会津の神々



### 聖地となる共通の記憶

山林労働などにより、思いがけない人間の死が訪れた場所は、その地域の多くの人々の記憶に残る。斜面の場合は「○○シンダヒラ(斜面)」（○○はなくなった人の名前）と地名がつけられ伝承される。山菜やキノコ、獣を捕る際に地域の人々はその地名で、山中の一カ所を特定する。山中につけられた地名は、人々が山との交流を止めた時から消滅する運命にある。それは、事故があった道の端に花束が供えられなくなり、時間とともに人々の記憶から消えることと同じである。

「特別な場所」は「聖地」としてあるいは「カミ」が棲むところとして地域の人々の共通の記憶に刻まれる。また、伝承のための仕組みが備わっていることがある。

博士山に天狗をまつた人々の祖先は今でも「天狗様祭り」を続けている。人々が記憶している限り、奥会津に棲む「カミ」は生き続ける。

(文：菅家博昭 写真：平田春男)

## 奥会津の郷土料理

### そうめんかぼちゃの漬物

細長いそうめんかぼちゃは、茹でるとそうめんのように繊維がバラバラになる。それを酢の物などにもするが、厚く皮をむいて長い繊維に沿って厚めの千枚に切り、しょうゆ、みりん、酒のだし汁に一晩漬けると、歯ごたえの良い漬物となる。



## 只見線

写真・文：竹島善一

只見線・滝谷駅。駅員さんが、交換したタブレットを手に、乗客と列車を見守る。鉄道では一定区間に一列車のみが運転を許可される。その運行許可の証が通票(タブレット)である。タブレットはキャリアーに収められ、列車乗務員と駅

員との間でやりとりされる。運行本数の少ない地方単線区間では、この方式で安全を保っていた。タブレット交換は腕木式信号機と共に、ローカル線のいつもの風景だった。



昭和49年6月 滝谷駅

『会津 蘇る記憶Ⅲ』より

# Q方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を買おう!

問題：次の方言の意味は何でしょう？

「来てけやれ」

正解者の中から抽選で2名様に、昭和村の「からむし手提げ」をプレゼントいたします。

●応募方法：官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先：〒969-7511

福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979  
奥会津書房 宛

●応募締切：2019年10月20日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。※クイズの答えは次号113号で発表いたします。

◎111号「にしや」の答え：あなた・お前

たくさんのご応募ありがとうございました!



# 読者コーナー



●表紙の木こりのお話やら、奥会津だよりには力強さが感じられます。(会津若松市：K.Kさん)

●道の駅で見かけるといっていただきます。“ほんわか”します。出かけたくなります。

(田村市：O.Jさん)

●奥会津の日常や自然と地域の方々の温かさは、かけがえのない宝物だと思います。(新発田市：W.Sさん)

●今回の聞き書きの方は92歳まで長命だったんですね。身体壮健だったのでしょうか。多くの苦労があったんですね。感銘を受けました。昔の方のすごさを感じました。(笠間市：E.Mさん)

●表紙の写真がいつも楽しみです。自然と人が、生き生きとした姿でストレートに伝わってきます。何人かの人が写真と文を作っており、各人の個性あふれる表現が実によく仕上がっており、毎号感心して読ませていただいています。アリガトウ!

(会津若松市：K.Hさん)



エゾリンドウ

奥会津だより  
定期読者募集中

ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。

問い合わせ先：只見川電源流域振興協議会事務局

TEL.0241-48-5525 FAX.0241-48-5575

E-mail: webmaster@okuazu.net

## みお ～水脈を訪ねて～歳時記の郷 奥会津展

❖奥会津地域の各町村特産品の物産展

❖ふるさと芸術展

抽選会あり!  
宿泊券や特産品があたる

場所：東北電力グリーンプラザ  
仙台市青葉区一番町 3-7-1 電力ビル1階

日時：10月1日(火)～6日(日)

1日……………10時30分～18時

2日～5日……………10時～18時

6日……………10時～15時

## 奥会津イベント情報

10月～11月

期日	イベント名	町村名	場所	問合せ
10月5日(土) ～6日(日)	自然首都・只見水の郷うまいもんまつり	只見町	只見駅前広場	只見水の郷うまいもんまつり実行委員会(只見町商工会内) ☎0241-82-2380
	第40回伊南武道館少年剣道大会	伊南地域	伊南武道館・伊南地域交流センター	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
10月5日(土) ～27日(日)	秋の味覚と紅葉キャンペーン	昭和村	村内キャンペーン協力店	一般社団法人昭和村観光協会 ☎0241-57-3700
10月9日(水)	第19回福島新そばを食べるコンペ	檜枝岐村	福島ゴルフ倶楽部民報コース	福島ゴルフ倶楽部民報コース ☎024-549-0244
10月11日(金) ～14日(月・祝)	イチョウの木の下仕事マルシェ	昭和村	交流・観光拠点施設 喰丸小	昭和村産業建設課観光交流係 ☎0241-57-2124
10月12日(土)	第8回会津やないづ赤べこまつり	柳津町	柳津町内	会津やないづ赤べこまつり実行委員会(地域振興課内) ☎0241-42-2114
10月13日(日)	うた*たねフェス	南郷地域	会津高原南郷スキー場	南会津町観光物産協会南郷支部 ☎0241-64-5811
10月18日(金) ～落葉まで	喰丸小 大イチョウライトアップ	昭和村	交流・観光拠点施設 喰丸小	昭和村産業建設課観光交流係 ☎0241-57-2124
10月19日(土)	南郷新そばまつり	南郷地域	会津高原南郷スキー場	南会津町観光物産協会南郷支部 ☎0241-64-5811
	伊南川100kmウルトラ遠足ファイナル大会	伊南地域	伊南総合支所前スタート・ゴール	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
10月19日(土) ～20日(日)	第15回会津の編み組工芸品展	三島町	三島町交流センター山びこ	三島町生活工芸館 ☎0241-48-5502
	第9回ものづくり再光		三島町生活工芸館	
10月20日(日)	唐倉山山開き	南郷地域	唐倉山登山口(木伏地区)	南会津町観光物産協会南郷支部 ☎0241-64-5811
	第34回ゴーマン杯南会津町ふるさと健康マラソン大会	館岩地域	館岩グラウンド	南会津町観光物産協会館岩観光センター ☎0241-64-5611
	たのせふるさとまつり		たのせふるさと公園	たのせふるさとづくり会 ☎0241-78-2537
10月26日(土)	大博多山秋の山開き	伊南地域	奥会津博物館伊南館前受付	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
	前沢曲家まつり	館岩地域	前沢集落	前沢景観保存会 ☎0241-72-8977
10月26日(土) ～27日(日)	奥会津ごっつおまつり	金山町	金山町中川 町民体育館周辺	金山町役場復興観光課観光係 ☎0241-54-5327
10月26日(土) ～11月9日(土)	山人新そばまつり	檜枝岐村	檜枝岐村内(旅館・民宿)	尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241-75-2432
11月上旬	古町の大イチョウライトアップ	伊南地域	旧伊南小学校	南会津町観光物産協会伊南観光センター ☎0241-64-5711
11月2日(土)	かしゃ猫ロードトレッキング大会	三島町	志津倉山	三島町観光協会 ☎0241-48-5000
11月4日(月・祝)	おたに新そばまつり		大谷活性化センター	おたに新そばまつり実行委員会事務局 ☎090-6781-7706
11月9日(土)	第26回只見新そばまつり	只見町	季の郷 湯ら里	季の郷 湯ら里 ☎0241-84-2888
11月10日(日)	第12回会津柳津新そばまつり	柳津町	やないづふれあい館	柳津町商工会 ☎0241-42-2552
11月23日(土)	こぶし館新そばまつり	金山町	道の駅奥会津かねやま	道の駅奥会津かねやま ☎0241-55-3335



発行：只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・只見町・南会津町(南郷、伊南、館岩地域)・檜枝岐村)  
発行日：9月17日発行(年6回発行)事務局：〒969-7511 福島県大沼郡三島町町民センター内奥会津振興センター TEL.0241-48-5525  
http://www.okuazu.net ☐webmaster@okuazu.net 編集：奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580

★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の7町村の活性化と振興を図るために活動している団体です。

この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。